



植 物

サクラ材のさまざまな使われ方

春、卒業の季節には桜の花やその花吹雪が似合います。この時期に咲く桜はソメイヨシノです。ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンという野生種の両親から生まれたものです。このように野生種を母体にして、さまざまな品種の桜をつくるのが平安時代から行われてきています。実をサクランボとして食べるセイウミザクラも、さまざまな品種が作られています。

野生種のヤマザクラは、その材は良質でゆがみが少なく表面も滑らかであり、建築材、家具材、楽器材さらに器具材などに使われています。表面の滑らかさは材の細胞の配列や性質によって異なります。広葉樹では、木の中にある水の通り道を道管といいますが、その道管が大きくて年輪に沿って並

んでいるミズナラは表面が粗く、一方、一つの年輪内にほぼ均一に道管が散らばっているヤマザクラは、いわゆる木目(きめ)細かく、表面が滑らかな樹木といえます。

建築材としては床柱、鴨居や敷居に用いられ、家具としては、サクラ材の洋服ダンスは高級品として知られています。材として使われるにあたってはその強さが重要です。家具や建築に使われる場合、さまざまな荷重が外部からかかります。それに応じて、木材は、伸び、縮み、ねじれ、さらに強い力がかかると、裂けたり折れたりします。その強さは、材の密度などによって異なりますが、その部分に節があったりすると、その強さは変わります。一般に、サクラは曲げに対しては強く、圧縮やせん断に対しては中程度の強さを有してい

ます。

サクラ材を使った楽器には、伝統芸能である能や狂言に用いられる大鼓や小鼓があります。器具としては、写真機の三脚や靴の木型、額縁など多岐にわたっています。このように、我が国の春の風景に欠かせないサクラは、その材の性質からも、我々日本人と深くつながっているのです。

